

【真南風】南から吹いてくる風。オモロ原注に「南国の事」とある。『沖縄古語本発典』(角川書店)より



※トップス欄に載る名称、人物の肩書などは、記事をもととして用いるため、原則としてこのものとします。

TOPICS

県産品愛用で豊かな沖縄県を 「県産品奨励月間」街頭キャンペーン

見つけよう 私の推しの県産品。

県産品奨励月間が7月1日から始まった。県内19団体でつくる県産品奨励月間実行委員会会長・古波津昇(県工業連合会会長)は初日の同日、県庁前県民広場で街頭キャンペーンを実施した。

ヤンペーンを実施した。

県工業連合会会長、那覇市、連合沖縄の関係者ら約230人が参加した。拓伸会各社も役員が参加し、猛暑の中、県産品の愛用を呼び掛けた。

さつで次のように述べた。

「県産品奨励月間は、県産品の愛用により沖縄県がさらに豊かになることを県民の皆様にもっと知っていただく目的で実施いたします。本県の経済は、観光産業が活気を取り戻している一方で、物価上昇や資源・エネルギー価格の高騰などの影響により、依然として厳しい状況も続いています。県経済の本格的な回復には、県民一人ひとりが県産品を積極的に利用し、地元企業や店舗を応援することが大切です。道が『県産品の愛用』です。『県産品の愛用』は『地域経済の活性化』と『地域の雇用の確保と創出』そして『沖縄から資金を流出させない』ことにつながる有効な手段です。

今まで以上に全県民が一体となって取り組む必要があります。県民一人ひとりが県産品を愛用することは、沖縄の自立経済に向けて大きな原動力となるのです。右の囲み記事参照。この機会に、多くの方々に県産品をもっと知っていただき、愛用していただきますことを切に願っております」

実行委員会は期間中、「ふるさと企業訪問を実施するほか、加工品や建築建材などさまざまな県産品の使用を県や市町村へ要請する。



県民広場であいさつする古波津会長



(左)「琉球新報」7月2日付
(下)「沖縄タイムス」7月2日付



県産品愛用は雇用を拡大し豊かな沖縄県をつくります

公益財団法人沖縄県産業振興財団が県産品の消費拡大を目的として、県内の経済効果の調査を実施しました。その結果、県内産品の消費額は2014年と比較して1.5倍に増加し、雇用も1.5倍に増加しました。

品名	消費額(億円)	雇用(人)
3ヶ月前	789,160,000	6,602
6ヶ月前	1,139,430,000	13,662



4個人・3団体を表彰 タイムス賞 動物への感謝状

第69回(2025年度)沖縄タイムス賞の贈呈式と祝賀会が1日、那覇市おもろまちのザ・ナハテラスであり、各分野で功績のあった4個人と3団体に賞が贈られた。感謝状1件も贈呈された。(23面に関連)

正賞は産業部門で拓伸会(拓南グループ)、文化部門で「組踊音楽太鼓」人間国宝の比嘉雅之さん(73)、「八重山上市」人間

国宝の新垣幸子さん(79)。体育部門で県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」保持者の仲程力さん(91)、元県高校野球連盟理事長の安里剛則さん(85)。社会活動部門で米軍機墜落事件の記憶を継承する「NPO法人石川・宮森630会」、特別賞で沖縄戦の全戦没者名を刻む県の「平和の礎」事業が受賞した。

感謝状を受けたのは、1975年

の沖縄国際海洋博覧会以来、イルカショーで活躍するオキちゃん、ムク。沖縄タイムス賞開始以来初の動物への贈呈となった。

沖縄タイムス社の瑞穂山秀彦社長は「沖縄の産業発展、伝統文化の継承、スポーツ振興、平和発信に多大なる貢献をいただいた」とあいさつ。特別賞を受けた玉城デニー知事は、沖縄戦から80年、平和の礎建立から30年となることに越え「平和を希求してやまない沖縄の心を発信し続けたい」と決意を語った。

(社会部・喜数よしの)



「沖縄タイムス」6月26日付

第69回沖縄タイムス賞(正賞7件、感謝状1件)の受賞者

- ▽産業部門：拓伸会(拓南グループ)「製鉄、製造業振興の功績」
- ▽文化部門：比嘉雅之氏「伝統芸能の継承・発展に尽くした功績」
- ▽文化部門：新垣幸子氏「八重山上市の継承・発展に尽くした功績」
- ▽体育部門：仲程力氏「伝統空手の普及・発展に尽くした功績」
- ▽体育部門：安里剛則氏「沖縄高校野球の競技力向上に貢献」
- ▽社会活動部門：NPO法人石川・宮森630会「宮森事件の記憶を継承し平和教育に貢献」
- ▽特別賞：沖縄県平和の礎事業「戦死者の名を刻み続け非戦の誓いを発信」
- ▽感謝状：オキちゃん、ムク「50年の沖縄観光象徴としての功績」

「沖縄タイムス」7月2日付

駆除したサメで高品質製品

金城立磨氏に技術功労賞 古波津製造業育成基金

5月

古波津製造業育成基金(古波津昇理事長)は5月28日、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城で開かれた県工業連合会の定時総会で、2025年度(第33回)の表彰式を行った。

技術名称「厄介モノから役

立つモノへ」の金城立磨氏(Cafoca代表・サメ革職人)が「技術功労賞」を受賞した。「製造業起業賞」は該当者がなかった。

表彰式では、同基金の外間健理事が審査結果を報告した。

「県内で駆除・廃棄されたサメ資源を、革職人の技術を生かして高品質な革製品(財布・名刺入れ・バッグなど)にし、地域資源の循環と持続可能なものづくりを実現している。いまのところ、肉はペット用ジャーキー、ヒレはフカヒレとして県外で加工されているが、今後、県内加工も視野に入れ、食品加工会社の寄宮(渡久地政也社長)と研究中である。こうした取り組みは、社会的課題の解決と環境への配慮を両立させたものであり、新規性・環境



賞状を受け取る金城氏



名刺入れとキーホルダー(お守りのサン)

「見つけてくれて感謝」

表彰式に先立ち、「首里の

れ、金城氏は、寄宮の渡久地社長とともに地元2紙の取

柔軟で活力ある企業に

新社長就任あいさつ



この度、拓南製作所株式会社代表取締役社長に就任いたしました。

これまで会社が築いてきた技術と信頼を大切にしつつ、時代の変化を先取りし、新たな事業の開拓と経営基盤の構築にも積極的に取り組んできてまいります。

社員の皆さんと力を合わせ、柔軟

拓南製作所 代表取締役社長 奥平 勉

で活力ある企業づくりを進めていきたいと考えております。拓伸会の皆さま、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

これからも地域社会やお取引先とのつながりを大切に、さらなる発展と持続可能な成長を目指して邁進してまいります。



技術功労賞に金城氏

古波津製造業育成基金 駆除したサメで革製品

古波津製造業育成基金(古波津昇理事長)は5月28日、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城で開かれた県工業連合会の定時総会で、2025年度(第33回)の表彰式を行った。

技術名称「厄介モノから役立つモノへ」の金城立磨氏(Cafoca代表・サメ革職人)が「技術功労賞」を受賞した。「製造業起業賞」は該当者がなかった。

表彰式では、同基金の外間健理事が審査結果を報告した。

「県内で駆除・廃棄されたサメ資源を、革職人の技術を生かして高品質な革製品(財布・名刺入れ・バッグなど)にし、地域資源の循環と持続可能なものづくりを実現している。いまのところ、肉はペット用ジャーキー、ヒレはフカヒレとして県外で加工されているが、今後、県内加工も視野に入れ、食品加工会社の寄宮(渡久地政也社長)と研究中である。こうした取り組みは、社会的課題の解決と環境への配慮を両立させたものであり、新規性・環境

材を受けた。

金城氏は、両紙の記者に対し、ハブ革加工職人だった時期に友人のマグロ漁師から「サメの皮で財布をつくれな」と言われたなど2019年に起業した経緯について話した。また「解体作業がスムーズにできるよう、サメ駆除を行う漁師たちと信頼関係を築くのが一番たいへんだった。そんな彼らが、私の商品を見て感動してくれたときはうれしかったと振り返った。

また、金城氏は、受賞について「私の取り組みを同基金が見つけてくれて感謝している。報奨金は、新商品の制作費にあてたい」と感想を述べた。

一方、同席した渡久地社長は、食品加工の立場から「肉を試食したとき、たんばくで



理事らとともに。(前列左から)座間味氏、古波津理事長、金城氏、喜友名氏(山城校長の代理)

臭みがなく、地元の食材として可能性を感じた。てんぷらの素材あたりから活用を

考えてみたい」と抱負を述べた。地元2紙の記事は右参照。



(上)「琉球新報」

6月1日付

(左)「沖縄タイムス」

5月29日付



記者会見で質疑に答える金城氏(同手で説明)

事前説明ブースにAI音声導入 第39回工場見学会

拓伸会 5

拓伸会は5月2日、第39回工場見学会を開催した。リサイクルを通して、ゼロエミッション社会の実現に貢献しているグループ各社の活動を広く周知するのが目的。そこで、副ディレクターを務めた拓南本社総合企画部企画管理課の平田星来氏に寄稿してもらった。

5月の工場見学会を振り返って

拓南本社総合企画部 平田星来

今回の工場見学会は快晴にも恵まれ、まさに工場見学日和でした。見学者は410人となり、各企業に務める新入社員が特に目立ちました。今回から、事前説明ブースにAI音声を導入することで省力化を図り、「拓伸会」のぼりを設置し、会場の雰囲気盛り上げることができました。

その結果、見学者から「工場の迫力と従業員の丁寧な対応に感動した」「また来たい」といったうれしいお声もいただきました。

百間は一見にしかず

直接現場を拝見し、大変有意義な工場見学会をさせていただきました。

鉄筋を作る工程では、右から左へと自動化されたさまざまな機械を通り、完成したばかりの真つ赤に燃え上がった1本3kmの鉄筋を排見させていただきました。そのスケールの大きさ、長



佐喜眞市長(中央)を囲んで

把握し、あらためて、本部と現場の連携がスムーズな運営に欠かせないことを学びました。今後も、円滑な連携を大切に、見学者とスタッフの皆様が「楽しい」と思える見学会を目指してまいります。

最後に、「拓伸会」の皆様のご協力があったからこそ、この工場見学会だったと実感しています。本当にありがとうございました。

今回の工場見学会には、宜野湾市の佐喜眞淳市長も参加した。感想を寄稿してもらった。

宜野湾市長 佐喜眞淳氏

年の技術の高さに大変驚き、勉強になりました。

また、車や冷蔵庫、洗濯機などから一つ一つ職人の手作業で分別し、大きな金に鉄スクラップを入れ、大量の電流で鉄を溶かして新たな製品としてリサイクルする過程には、大切な資源として蘇らせる想いを感じました。

現場は熱風や鉄粉があり、現場で働く方々には熱中症対策や健康管理に引き続き留意していただき、これからも「鉄を拓いて琉球を興す」の理念のもと、沖縄の発展により一層貢献されますことを期待しております。

古波津会長をはじめ、ご対応いただいたすべての皆様へ感謝を申し上げます。

また、今回の見学会には、



ハローワーク職員・相談員の皆さん



沖縄労働局の具志堅氏(前列左から2人目)と新里氏(同3人目)

職業経験上、大変有意義

沖縄労働局地方労働基準監督官 新里 隆氏

地産地消の資源リサイクルに「鉄を拓いて琉球を興す」企業理念の実践を熱心に説明される社員の方々は、誇りや使命感を感じ、見学では、各工程で、分かりやすく説明を受けました。暑熱環境のなか、熱中症対策を講じているとともに、作業効率化や作業員の負担軽減を実践しており、感銘しました。

県内では原料加工から製品までの一連の工程を見聞

の参加者があつた。それぞれ1人ずつ、見学の感想を寄稿してもらった。

する機会に乏しく、とくに若手職員に製造現場を見てもらうことは職業経験上、大変有意義なことから、今後も見学会の継続を願います。

同行した新規採用職員も「在学中に見学していれば、

一丸となって取り組んでいる

沖縄労働局地方雇用保険監察官 具志堅昌邦氏

社員の方々の熱意を感じ

られ、一丸となって取り組んでいる様子が印象的でした。家電製品の解体作業では人の手による細かい作業に驚き、鉄筋を作る工程ではオートメーション化された設備の前で、規模の大きさや加熱された鉄の熱気に圧倒されました。

私たちが使用した自動車や家出製品が、多くの方々の手によって新しい製品に生まれ変わる瞬間を目にすることができ、大変参考となりました。

工場見学会で思わぬ再会

拓南製鐵製造部 儀間千菜津

拓南製鐵製造部社員の儀間千菜津です。拓南製鐵へはハローワーク沖縄を通じてご縁をいただき、入社して5年目になります。

工場見学会では事前説明ブースを担当しました。その際、見学にお越しになられたハローワークの見学者のお



会議室で特別レクチャー

製造現場に対するイメージが変わっていた」と感想を述べていました。

大規模工場の見学は初めての体験でしたが、私たちの住む沖縄県において、循環型社会の実現に向け、創意工夫を凝らし日々取り組む御社の活動を知ることができ、大変有意義でした。

ところで、今回の工場見学会では、思わぬ再会シーンがあつた。そこで、当事者の儀間千菜津さん(拓南製鐵)に寄稿してもらった。

一人が私の顔を覚えてくださっていて、お声がけをいただきました。とても驚き、また感激しました。

ハローワークでの求職活動中は、担当の方には本当に親身になって相談に乗っていただきました。お陰様で拓南製鐵に就職でき、現在は、

「島嶼部におけるスクラップの扱い」

鉄鋼協会の研究会が工場見学

サプライチェーンマネジメント研究会が5月22日、「島嶼部におけるスクラップの扱い」をテーマに拓南製鐵・拓南商事の工場見学等を実施した。その経緯、当日の内容について、窓口を務めた拓南本社技術開発研究室の知念響室長に寄稿してもらった。

研究会側から講演、討論会も

拓南本社技術開発研究室室長 知念 響
5月22日にサプライチェー 来社し、拓南製鐵・拓南商事
ンマネジメント研究会が の工場見学と討論会を行い



初代電気炉の前で

ました。

同研究会は、鉄鋼協会という学会の中にある10人程度の研究会です。今年の9月に開催される鉄鋼協会の秋季大会で、同研究会は「鉄鋼産業に関わる複合的環境問題」と題するシンポジウムを行う予定ですが、島嶼部におけるスクラップの扱いが議題の一つとなるため、工場見学を行うこととなりました。

また、今回は、見学だけでなく研究会側からも講演をしていただき、当グループに向けて研究内容を展開いただきました。その2件の講演内容を以下に示します。

1件目は、立命館大学の山末英嗣教授によるもので、鉄鋼に関わるサプライチェーンマネジメント戦略という講演でした。現在、EUを中心に製品の持続可能性に関する情報を記録する「デジタル製品パスポート(DPP)」の導入が進められています。こうした動きに象徴され



見学シーン



講演ならびに討論も

るように、持続可能性の確保を目的とした制度や技術開発が各国で推進されています。

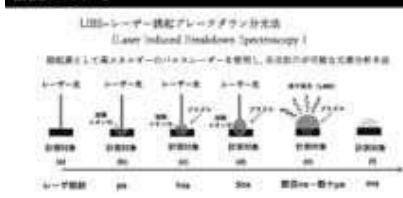
一方で、この動きは脱炭素技術に必要な新たな資源(リチウム等の採掘活動)を強く促すことになるため、持続可能性の確保に取り組む際は炭素排出量だけでなく、採掘活動量にも注目する必要があります。このこと。

2件目は、立命館大学大学院生の友野佳祐氏によるもので、レーザー誘起プラズマ分光法(LIBS)に

関する内容です。LIBSは計測対象にレーザーを照射して、プラズマ化した際に生じる電磁波から含有元素の濃度情報を得るものです。波長スペクトルという実験データに対して機械学習を適用することで、軟鋼等の自動車用鋼板の選別を可能にしました。

今回の工場見学および討論会では、研究者との交流を通して多くの知見を得ることができました。今後も学术界との交流を深め、自社の研究開発に生かしていきます。

LIBSについて



LIBSの原理

資源パラドックス問題



資源パラドックス



東恩納博文氏

池間隆暁氏

拓伸会会員企業から11人
沖縄県工業連合会(古波津昇会長)は5月28日、ダブルツリービルトン那覇首里城で第41回定時総会を開いた。その席上、優良従業員賞、優秀技能者賞、創意工夫功労者賞の表彰式を行った。拓伸会関係者から計11人が表彰された。

その内訳は、優良従業員賞7人、優秀技能者賞2人、創意工夫功労者賞2人、古波津会長が表彰状を授与した。

創意工夫功労者賞の表彰では、拓南製鐵の池間隆暁氏と拓南商事の東恩納博文氏がステージにそれぞれ登壇した。写真参照。

各社の被表彰者とコメントは下記の通り(敬称略)。

製造部 次長 棚原大樹

「この度は素晴らしい賞を頂き光栄に感じております。皆様のご指導、ご協力があったこそ受賞ですので、今後とも精一杯仕事に励んでいきます。引き続き、宜しくお願い致します」

製造部 次長 棚原大樹

「この度はこのような賞をいただき、身に余る光栄です。これからも精進して参ります」

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹

製造部 次長 棚原大樹



周囲の方々に支えられながら、仕事を通じて新たなスキルを身につけ、自分の成長を

実感できる環境で働けていることに感謝しています。拓南製鐵という素晴らしい会社で就職する機会をいただいたのも、ハローワークさんの手厚いサポートがあったからです。ありがとうございました。

拓伸会会員企業から11人

沖縄県工業連合会公表彰

〈優良従業員賞〉

〇拓南本社

総合企画部企画管理課 課長代理 瑞慶山尚子

「日頃より支えてくれる皆様のおかげでこの度は素晴らしい賞をいただきました。ありがとうございます。受賞名に恥じないよう引き続き頑張りたいと思います」

〇拓南製鐵

〇営業管理部 次長

東江栄輝

「この度は素晴らしい賞を頂き光栄に感じております。皆様のご指導、ご協力があったこそ受賞ですので、今後とも精一杯仕事に励んでいきます。引き続き、宜しくお願い致します」

〇拓南商事

営業部営業一課運送班 副班長管理 幸地 康

「これからも安全第一、健康第一で、定年まで頑張っています」

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

「表彰されて大変うれしく思

います」

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子

製造部自動車リサイクル課 シュレッター班 瑞慶山尚子



被表彰者と一緒に記念撮影

「優秀技能者賞」
○拓南製鐵
製造部製造班 副班長
金城 豊
「優良技能者賞をいただき光栄です。賞に恥じぬよう、これからも技術の向上と安全作業で頑張ります」

「5月より」
います。安全第一で会社に貢献して行きます」
○拓南製作所
管理部管理課 課長
糸数勝浩
「すばらしい賞を頂き嬉しく思います。今後も頑張つていきます」
鐵構部与那城出張所所長
久高将親
「このような賞を頂き大変うれしく思います。これからも一つひとつ丁寧な業務を行えるよう努めて参りたいと思いますので今後ともご指導の程よろしくお願い致します」

「このたびは栄えある賞をいただき、大変光栄です。日々の工夫が評価され、励みになります。今後も精進してまいります」
○拓南商事
製造部自動車リサイクルアルミ選別班 職長
東恩納博文

○拓南製鐵
製造部庄延班 池間隆暁
「この度はグループ全員が一致団結し、創意工夫をして得られたものだと思います。これからも働きやすい職場作りに努めていきます」
○拓南商事
製造部自動車リサイクル課シュレッダー班 職長
永吉盛尚
「このような素晴らしい賞をいただき光栄に思います。これからも技術向上に取り組みでいきたいと思ひます」



「長年にわたり続けてきた玉掛け作業で、このような形で評価していただけたことを大変うれしく思います。これからも経験を生かし、安全な作業環境づくりと、若い世代への技術継承に貢献してまいります」

拓南製作所の東氏を表彰

日本クレーン協会沖縄県支部

5



沖縄県広告協会(又吉直人理事長)は5月22日、第43回沖縄県広告協会の贈賞式を沖縄産業支援センターで開いた。全17部門の中で、セールスプロモーション・第一部門の金賞に選ばれた「拓南会創業70周年記念誌写真集」(近代美術)も表彰された。

5月号に詳報した通り、拓南会は2022年10月にワキング・グループを立ち上げ、24年6月に記念誌を完成、同年10月にWEBサイトを公開した。写真を中心とした「視覚で楽しむ記念誌をコンセプトに、写真の説明等を補完する意味で各ページにQRコードを配置し、WEBサイトへ流入させ、70年間の変遷を楽しむという新しい記念誌の形に挑戦した。

拓南会創業70周年記念誌を表彰

第43回贈賞式開催 沖縄県広告協会

5



5月20、21日に、拓南本社安全統括室主催で開催された「クレーン運転の特別教育」を受講して、改めてクレーン作業の危険性と安全対策の重要性を実感しました。学科講習や実技講習で、クレーンの構造や操作方法について詳しく学ぶことができました。

ちよつとした確認不足が事故に

拓南商事家電リサイクル課 前田久喜

特に、「ちよつとした確認不足が大きな事故につながる」という点が強く印象に残り、日々の点検や安全確認の大切さを再認識しました。私の職場である拓南商事はホイストクレーンが設置されており、よく使用されています。身近にある設備であ



実技の様子

つても使い方を誤れば重大な事故につながることを改めて認識し、日々の業務で正しい操作と丁寧な点検が重要であることを再確認しました。今回、特別教育を受けて安全に対する意識をさらに高める必要があると強く感じました。現場で働く社員一人ひとりが安全に作業できる環境を整えるために、この経験を生かして、安全教育や設備点検体制の見直し・強化に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

クレーン運転特別教育 開催

拓南本社安全統括室

5



表彰状を手に(左から)上地氏、幸喜氏、伊禮氏

拓南本社安全統括室は、5月20、21日、拓南商事の要望を受けて、同社のプレハブ大会議室とE.L.V.建屋を会場にクレーン特別教育を実施した。拓南商事は、社員への安全教育の徹底と多能工化によりクレーンを運転できる人材育成を進めており、今回の特別教育はこの施策の一環。参加者は計12人で、クレーンを今後運転できるようにな

つてほしい人材や協力企業の社員だった。そこで、参加した拓南商事の前田久喜氏に感想を寄稿してもらった。

拓南商事3人を永年勤続表彰

(一社)県産業資源循環協会

6

持つて業務に取り組み、頑張つていきたいと思ひます。○製造部自動車リサイクル課シュレッダー班責任者 上地英泉
「今後も、会社に貢献できるよう努めてまいります。」
○製造部自動車リサイクル課E.L.V.班 幸喜盛朗
「この度は、表彰ありがとうございます。今後とも、より一層業務に精進し、会社の発展に貢献できるよう努力していく所存です。」



拓南本社は、古波津会長の
ご指示のもとに、拓伸会全社
の健康経営優良法人認定に
向けての支援協力業務と同

時に、本社社員の健康づくりに
も努めています。
昨年度の主な全社支援業
務としては、「仕事と治療の
両立支援(不妊治療)に係る
就業規則の改定」、「健康診断
カルテの分析支援」、合同会
議の主催等を行うとともに、
本社内部においては「健康推
進委員会」体制の構築、シス

さらなる健康経営の向上を

拓南本社安全統括室長 長濱直次



健康経営優良法人の認定
を昨年度に引き続きいた

果だと思っています。
安全管理同様、衛生管
理・健康管理も、事業の継続
や収益の確保には重要な条
件であり、健康経営を進めて
いくことは、会社の向上、さ
らには働く皆さんの待遇向
上にもつながります。一層
のご尽力をお願いします。

一人ひとりの努力の成果だ

拓伸会会長 古波津 昇

きました。これは、拓伸会各
社の一人ひとりの努力の成
果だと思っています。

2年連続 「健康経営優良法人」

拓伸会会員企業全8社に認定

5月号で速報した通り、拓伸会の県内外会員企業
全8社が3月10日、「健康経営優良法人2025(中小規
模法人部門)」の認定を日本健康会議から受けた。前
年に続いてV2の快挙となった。さらに、拓南商事、
拓南製作所および拓伸商事大阪は、ネクストブラ
イト1000(中小規模法人部門1万9796法人のうち、上
位501～1500位に入る法人)の冠を付加されて認
定された。

そこで、古波津昇会長に全社員に向けたメッセ
ージ、そして、各社の健康づくり担当者に連続認証の
感想(抱負)をコメントしてもらった(敬称略)。



2年連続「健康経営優良法
人」認定を受けることがで
きました。また、今回はさら
に上の「健康経営優良法人ネ
クストブライト1000」認定
を受けることができました
ことを大変うれしく思いま

す。
去年は、業務時間内に、西
原GCCを利用しての楽しい
運動社員同士のコミュニ
ケーションの機会を作りまし
た。また、スマホアプリを利
用して、歩数や運動、健康診
断などの活動をポイント化
し、獲得ポイントに応じて
特典を受けられる「楽しくで
きる生活習慣」をサポートし
ました。以前の取り組みは、
「やらされている感」があり、

「楽しく取り組む」が大事

拓南商事営業課主任 石川正人



れ、助言と自身の情報を知
ることに活用できたことで
した。また、全員参加のスポ
ーツレク大会を開催して大
変盛り上がり、社員間のコミ
ュニケーション向上にもつ
ながりました。
新たな試みとして、拓南本
社業務部と連携し、健診時に
「健康意識向上プログラム」
を実施、健康意識向上に貢献
できました。
令和7年度も、健康意識の
向上とPDCA強化を図り、
社員へ寄り添い、ニーズを把
握し、健康経営に取り組ま
す。

効果があったInBody機導入

拓南製鐵常務取締役 西銘 進

テムを活用した「歩数集計ア
ンケート」の改善、那覇市健
康イベントへの参加、西原グ
リーンセンターと共同のバ
イオキュー大会等を計画、実
行しました。また公立大学法
人名校大学研究プロジェクト
トへも民間企業として初の
協力を行ったところです。

今年度の本社は、苦手とし
ている野菜取得関係等の食
育、禁煙対策、ウォーキン
グの歩数増のための法人会
イベントへの初参加等、昨年度
の成果を踏まえて健康経営
の向上に取り組んでいます。

多くの社員が前向きに

拓南製作所執行役員営業本部長 比嘉義浩

いよいよながらに取り組ん
でいる感じでした。やって楽
しい「楽しく取り組む」が大
事だと考えます。
拓南商事は、有所見率が他
グループ会社よりも高いこ
とを踏まえて、今後の取り組
みとしては、健康診断の結果
に基づいて、二次検診が必要
な方への受診サポートを行
います。社員が安心して受診

できるよう推奨し、これによ
り早期発見を促し、異常所見
の発見率を向上させ、社員の
健康意識を高め、最終的に、
有所見率の低下につなげた
と考えています。これらの
取り組みを通じて、社員の健
康をしっかりとサポートし
ていきます。健康が企業の成
長につながると思い、引き続
き、健康経営に取り組んでま

全社員にもう一度伝えていく

西原グリーンセンター統括課長 大城優子

本年度、当社は「健康経営
優良法人2025」で、新設
の「ネクストブライト100
0」に認定されました。社員
の健康を大切にする取り組み
が評価され、とても励みに
なっています。
ハリー大会やビーチパ
ーティー、忘年会への参加も
増え、健康への意識が高まっ
てきました。ビーチパーティ

1では参加者の8割が「楽し
かった」と回答。野球に続き
サッカー同好会でも、社内
のつながりもより活発にな
っています。一日6000歩
の目標も達成率93%と、多く
の社員が前向きに取り組ん
でいます。これからも楽しみ
ながら、よりよい職場づく
りを進めてまいります。



2024年は、西原グリー
ンセンター50周年イベント
成功という大きな目標に向
けて、全社員が「つ」になり動
いた年でした。他部署の社員
とイベントの企画、準備を一
緒に進めることでコミュニ
ケーションが取れるきつ
けになったと思います。
健康経営をスタートして

ブライト500認定を目指す

拓伸商事(大阪)部長 上山浩代

2024年度の活動によ
り、健康経営優良法人202
5ネクスト1000に認定
されました。
何が良かったかを考える
と、社員アンケートで健康経
営の理解度や満足度が高か
ったこと、少人数の強みで意



左から比嘉部長、知念直成課長、糸数勝浩課長

いります。
「社員」一人ひとりが社会生
活をケガや病気もせず、健康
で生き生きと働ける豊かな
職場環境づくり、一人ひと
りの幸せな未来のために。来
年は、さらなる高みを目指し
「健康経営優良法人ブライト
500」認定を目指して努力
を続けたい。

心の健康にも取り組んだ

拓伸商事(福岡)専務取締役 安東秀徳



識統一のしやすさからイベントの参加率が高いなど協力を得られやすいこと、そして、拓伸会の協力のもとにHPなど複数の媒体に掲載していただき自社からの情報発信が増えたことなどが挙

今年度は、食生活改善や運動習慣、メンタル不調者対応などに改善の余地がまだあると思います。担当として、迷いも多いですが、健康経営を進める大切さを説明しながら、ブライト500の認定を目指したいと思います。

令和6年度は、体の健康も
さることながら、心の健康も
意識して取り組んだ1年だ
つたように感じています。
働く環境をどう良いもの
の基本としました。

の基本としました。



まず、大切にしたこととは「会話」を欠かさないことでした。「おはようございま

りなどが生まれたように感じます。

健康経営優良法人2022

健康経営優良法人2025を取得できたことは、自信にもつながっており、令和7年度も引き続き、心と体の健康を二指して皆で取り組んでいきたいと思っています。

評価内容の検証に力を入れる

薩南物産業務課主任 朝山由紀子



令和6年度は、スポーツジムの回数券配布やマラソン参加で運動に関する意識や

習慣の向上を目指しました。
令和7年度は、1日60000
歩達成に向けて、歩数管理を
徹底し血中脂質の改善を図
ることや、鹿児島産業保健総
合支援センターを活用した実
健康測定、ロコモ度診断の実
施、腰痛対策、転倒によるケ
ガの防止対策に新たに取り

県産EV車導入で納車式
サーキュラーエコノミー推進へ

サーキュラーエコノミー推進へ
拓南商事

拓南商事は、イメイド(う
るま市州崎が製造・販売を
手ける)の県産電気自動車(E
V車)2台を導入し、5月26
日に納車式を行った。2台は
は、軽便な鉄スクラップや産
業廃棄物の収集運搬で使用
するバンタイプ、そして、工
務部が資材運搬や整備時に
利用するトラックタイプだ。
拓南商事はEV車の導入
を、サーキュラーエコノミー
の一環として昨年から協議
を重ねてきた。そして、車体
のラッピングデザインを、営
業部の喜納郁未主任と工務
部の大城裕貴課員が担当し
た。

納車式では、平田要副社長があいさつし、「サーキュラーエコノミー推進のため、全員工が意識し行動すること」が重要だ。車の3S(整頓・整頓・清掃)や運転マナーも、これまで以上に高めていこう」と呼びかけた。また「県産品であるイメイド製の車を活用し、県産品の魅力も広く発信したい」と強調した。納車式には、イメイドの伊口明高社長、古波蔵篤専務も参加した。

喜納主任は、「今後、構内ではEV車が活躍すること

エコノミーへの取り組みが、社員のみならず県民にも広く伝わるのが期待されるとコメントした。

で、拓産商事のサーキニエ
エコノミーへの取り組みが、
社員のみならず県民にも広
く伝わるのが期待されると
コメントした。



お清めをする平田副社長

喜納主任は「資源循環を進める拓南商事の姿勢を表現できるよう、悩みながらも素敵なデザインに仕上げられることができた」、大城課員は「拓南商事のイメージカラーの青に、だれが見てもEV車と分かるようなデザインで、実際に使用するのが楽しみ」とそれぞれ期待を抱きながら納車式を迎えた。

メイドの伊口社長、3人目が古波蔵事務

組んでいきたいと思っています。

フィードバックシートにより、PDCAに関する取り組み状況評価が低いことが分かりました。プライト500、ネクスツプライト1000、O認証取得に向けて、取り組み強化に向けての評価改善をしっかりと行い、評価内容の検証に力を入れていきたいと思っています。

2台の電気自動車(EV)の前で。右から4人目が株



2台の電気自動車(EV)の前で。右から4人目が株式会社イメイドの伊口社長、3人目が古波蔵専務

比嘉氏（製鐵）に若手優秀社員表彰

沖縄県経営者協会

沖縄県経営者協会の第68回定時会員総会が6月5日、



祝福に駆けつけた役員に囲まれて

ダブルツリーbyヒルトン
那覇首里城(首里の間)で開
かれた。席上、2025年度
若手優秀社員表彰式が行わ
れ、拓伸会関係者から、拓南
製鐵の比嘉汐音氏(加工セン
ター)が表彰された。被表
彰者数は計51人。

比嘉氏は式典後、次のように感想を述べた。

「このような賞をいただき大変うれしく思っています。日々支えてくださっている皆様のおかげで、ここまで頑張ることができました。感謝の気持ちを忘れずに、さらに成長していけるよう努力してまいりますので、よろしくお願ひ致します」

長澤孝之主任が初講師

フルハーネス特別教育 拓伸会

拓南本社安全統括室は4月9、10日、フルハーネス特



新入社員を主に特別教育を実施している長澤主任(正面写真左)

澤孝之主任が初めて務めた。
(資格取得を5月号で紹介)

長澤主任は、「資格取得後
初めて労働安全衛生法第59
条第3項に基づいて実施さ
れるフルハーネス特別教育
の講師を務めました。緊張も
ありました。が、受講者の真剣
な姿勢に励まされ、有意義な
経験となりました。今後とも安
全教育に尽力したいです」と
感想を述べた。

○KYT講習 (4月4日・37人 会場・拓南製鐵大会議室)

事前の危険性把握が対策に

拓南商事 高安萌江



KYT(危険予知トレーニング)講習では、イラストを見て、職場や作業中に潜む危険要因をグループの人と話し合うことで、自分では気づけなかった危険に気づくことができ、効果的な回避行動を考えることができました。

この講習を通して、事前に危険性を把握することで現場の安全対策を強化し、ヒューマンエラーの防止につながり、労働災害などの事故を防げることが分かりました。日頃から、危険のポイントや行動目標を指差し呼称で確認し、安全に仕事に取り組みんでいきたいです。

○雇入れ時安全衛生教育 (4月1日・22人 会場・拓南製鐵大会議室)

安全についてより意識

拓南商事 東門希竜



雇入れ時安全衛生教育では、グループワークでほかの人と意見を交換することで、自分では気づけなかったことを気づけるようになり、危険予知能力を向上することができました。他にも、指差し呼称の仕方を学びました。

労働災害についても、過去の労働災害の件数や死者数を見てとても驚き、安全についてより意識するようになりました。

日頃から指差し呼称や安全について考えながら、全員でゼロ災1000日を目指していきます。

○フルハーネス特別教育 (4月9日・24人 10日・35人 会場・拓南製鐵大会議室および津波避難タワー)

器具を使用しても油断大敵

拓南製作所 松川竜己



4月10日に開催されたフルハーネス特別教育の講習を受けました。

以前までは安易に命綱という認識でしたが、名称が墜落制止用器具であることや、高さ6・75メートル超ならフルハーネス型が原則義務である、使用可能な質量やフックの位置など様々な選定要件や使用方法があることを知りました。また、墜落制止用器具を使用している危険が多くあることを学びました。

実際に使用する際は、墜落制止用器具に関する知識と使用方法を理解の上、労働災害防止を心がけていきたいと思います。

○研削砥石特別教育 (4月8日・28人 会場・拓南製鐵大会議室および工場)

使用前に1分間慣らし運転

拓南製鐵 比嘉洗太



私は、研削砥石特別教育を受けました。午前は、基礎知識を学びました。電気と空気グラインダーの違いや、回転数を確認し研削砥石のマッチングを調べる方法、災害事例をもとに危険な行為についても学びました。

午後は、関係法令を学んだ後、グラインダーの実技を行いました。グラインダーは使用する前に1分間慣らし運転を行ったり、指差し呼称で電源を確認することなどを学びました。

今回学んだグラインダーについての知識や技能を生かして、今後の業務に励んでいきたいです。



新入社員等各種安全衛生教育 実施

5日間延べ146人受講

拓南本社安全統括室

4

拓南本社安全統括室は、拓伸会の令和7年度新入社員(22人)、安全衛生教育を受講していない会員企業の社員に4月1、4、8、9、10日の5日間にわたって各種の安全衛生教育を実施した。延べ146人が受講した。受講者を代表して、新入社員4人に感想を述べてもらった(敬称略)。

製鐵の3氏を永年勤続表彰

沖繩商工会議所

6

沖繩商工会議所は6月26日、第372回常務委員会を結成式場NBCで開いた。その席上、永年勤続優良従業員(10年表彰)として、拓南製鐵の奥平優斗氏、備瀬知亮氏、小橋川正弥氏が表彰された。表彰状と記念品が各人に贈呈された。

「今回このように表彰していただけたことを大変うれしく思います。これもひとえに入社から支えてくれた上司

第2回は関西コース3泊4日

合同社員研修旅行 拓伸会

4

拓伸会は、第2回合同社員研修旅行を4月22日から3泊4日の日程で実施した。今回は、関西コース(前回は北九州コース)。拓南製鐵の八木実社長を団長に、会員企業各社から計32人の役職員が参加した。そこで、拓南本社の田名俊徳氏に寄稿してもらった。(研修旅行の目的については5月号参照)

黒鉛電極などを学ぶ機会に

拓南本社 田名俊徳

拓伸会社員研修旅行の2回目である今回は、京都・大阪でのSECカーボン、KTCものづくり技術館の見学を主とした研修旅行となりました。

見学を行った2カ所は、拓伸会の事業と関わりがとても深く、電気炉の基幹となる黒鉛電極や工具などについて知ることができました。とても良い経験となりました。

また、各社から参加したメンバーの中には初めての人もあり、交流する機会になりました。観光地や懇親会などで仲を深められたと思います。

この研修旅行の経験を生



(左から)八木社長、小橋川氏、備瀬氏、奥平氏、山内専務

や先輩、同僚の方々のおかげだと思っています。今後とも応援いただき、20年30年と勤続を続けて行けたらと思います」

技術部課長 備瀬知亮

「上司や先輩方、同期に支えられて表彰されたと思っております。これまで以上に一生懸命精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします」

営業部課長 小橋川正弥

「今回の表彰は、これまで職場の皆様に支えていただいた結果だと感じております。今後ともよろしく願います」

社宮前「鳥居」の奉告祈願祭

拓南製作所

5

拓南製作所は5月26日、「社宮」前に設置した鳥居の奉告祈願祭を行った。(鳥居設置については本紙5月号で既報)

拓伸会の小湾正博副会長、拓南製作所の勢理客耕司専務、富里真史常務、宮國正幸常務ら計11人の役職員が参加し、玉串を捧げた。

「鳥居は、単なる建造物ではなく、心を整える象徴であり、安全のはじまりともいえる存在だ。鳥居前で一礼すると、自然と背筋を伸ばし、静かな気持ちになる。それは、『心を落ち着けよう』という意識のスイッチとなり、安全作業にもつながる。最近、車両事故や産業事故が多



い。心を落ち着かせる意味でも鳥居前で一礼し、安全意識を高めてほしい」

ロスの空港に着き、預けた荷物を受け取る段になって紛失(ロスト・バゲージ)しているという最悪な事態に見舞われた。係員は「乗ってきた飛行機には積まれている。手配するが明日以降になる」と。

当初からロスで2泊の予定だったので、明日来るからと伝えてダウンタウンへ向かった。けれども、万が一にも見つからなかったらすべてが水泡に帰してしま

うと考えると心ここに在らずで、無意識のうちにリトル東京エリア近傍のホテルに足が向いていた。

少しでも日本語が聞きたいという心理状態が働いたのだらう。

翌日から空港へ日参することになった。通うこと6日目にはとうとう茶を煮や

し、「何とかしろ」と食ってかかった。

「いまだに見つからないということは、いつになるかわからない。1カ月以内に見つからないときは賠償金を払う」

「そういう問題じゃない。必ず探して送ってくれ」と届け先を書いて渡した。ところが、

「その便は国内線で外国へ

沈む瀬、浮かぶ瀬

黒島 善茂

は送れない。国内の届け先を書いてくれ」と言う。

そう言われても知人なんていないわけない。「泣き面に蜂」とはこのことかと途方に暮れてしまった。

心を落ち着かせるため、ホテルのラウンジでコーヒを飲みながら、打開策を講じるべくこれまでの事柄をなぞってみた。

その時、ふと思い出した

のが、往の休憩時に雑談しているところへ創業者が来られて、ニューオリンズのことや牡蠣(オイスター)が美味しかったなどを話された後に「黒島君、もし困ったことがあればこの方を訪ねなさい」とメモを渡されたことだった。

たしか、それを手帳に記入したはずだ。部屋へ戻り、手帳を見ると

「あった!」

しかも、ロス在住の大城某氏だ。欣喜雀躍、すぐさま大城宅を訪ね、事の成り行きを説明し、お願いしたところ、

「よく分かった。心配するな。古波津君は元気か?」「はい。お陰様で元気にしております」

「そうか、それは良かった。しかし君も大変だったな。



ドジャースタジアム

気分転換にメジャーリーグを見に行こう」と誘っていたのだ。

初めて見るプロ野球、しかも、いきなりメジャーリーグを観戦するなんて夢のようだった。沈む瀬もあれば浮かぶ瀬もありかと思いつつ、野球を堪能した。いま最も有名な大谷選手の名属するドジャースタジアムだ。

その夜は、高揚感と創業者の深謀遠慮に心打たれ、胸が熱くなり、なかなか寝

つかなかった。

(拓伸会 元名誉会長)

後記

「技術功労賞」を受賞した金城立磨さん(3員参照)取材して感じたのは、サメ駆除を行うウミンチュたちと信頼関係をいかに築いていたかだった。飲み会へメメに顔を求めたり、積極的にアドバースを求めたり、独りで行う解体作業を見てもらったり。それだけに、できあがった商品を初めて目にしたウミンチュたちがとても喜んでくれたときは感動したと思う。よい仕事には、そんな時間が詰まっているのだ。(鈴木)

拓南余話 22